

ワーカーズ・コレクティブ(W.Co)とは…

同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす

虹の街との連携で ワーコレを広める活動 ～好きです！私たちの働き方～

昨年に続き、今年も生活クラブ虹の街との連携で、ワーカーズ・コレクティブを広める活動を展開しています。「秋のつどい」「ハローワーク」「連続起業講座」を通して、多くの人にW.Coをアピールし、可能性を広げていきたいと思えます。社会的連帯経済をどのように進め、形あるものにしていくか、私たちの実践で示していきましょう。



市原での連続起業講座

キーワードは人間らしい働き方

今年度理事長に就任しました熊澤聡子と申します。「街に必要なことを自分たちの手でつくり出す」ことをキーワードに、ディーセントワーク（人間らしい働き方）の実践者として活動を30年以上前から続けてきた私たちです。この歴史を受けて理事長の職に就くにあたり、その責務の重さを痛感しております。まだまだ未熟な私ではありますが、今後におきましては、変わることを恐れず連合会としてできることを精査しながら、その使命を果たすべく努力する所存です。前任者同様、今後も更なるご協力とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

今年の連続起業講座では、ワーカーズコレクティブの基礎を学びました。ひとりだけでなく仲間と物事を進めるという視点で合議していく大切さを改めて感じました。このような講座から、実際に起業する仲間が生まれることを期待します。

ワーカーズコレクティブ千葉県連合会 理事長
熊澤聡子

起業への夢を描いて、実践へ！

W.Co起業講座in市原

2019年度第1弾の起業講座を3回連続講座(5/24、6/7、7/5)として開催しました。

地域のために何かを始めてみたい、W.Coの働き方が知りたいなど、虹の街組合員を中心に、虹の街市原センターで9人が受講しました。

講座では「W.Coとは?」「仲間づくりから設立まで」「事業と組織運営」について、W.Coの事例紹介やワークショップを行いながら、実践にむけて参加者同士が意見交換し、考えていきます。

受講者からは、起業に向けて具体的にイメージすることができた、などの感想があり、今後の展開が楽しみな講座となりました。

副理事長 風間由加

食 ワーカーズ・コレクティブ菜の花

食の安全にこだわった無添加手作りのお弁当・惣菜を、地域の人たちにも食べてもらいたい、という思いで新松戸の地にお店を開き、来年は25周年を迎えます。

アレルギーのお子さんを持つ若いお母さんや高齢の方、仕事帰りなどの常連さんや、「健康に良いお弁当」という口コミによるご来店、また特別弁当やオードブルのご注文もあります。

日頃のいろいろな問題について40代~70代のメンバーみんなで話し合い、より一層信頼に応えられるよう頑張っています。

W.Coレシピ 手羽先のコチュジャン和え

<材料>
鶏の手羽先 1kg
酒 100cc
卵 1個
片栗粉・小麦粉 適量
コチュジャン・醤油・
素精糖・ごま油・
ケチャップ 各大さじ2
白ごま



<作り方>
①手羽先は細い方を切り落として中割れにし、酒につけておく。
②とき卵・片栗粉・小麦粉をまぶして唐揚げにする。
③コチュジャン・醤油・砂糖・ごま油・ケチャップを混ぜておき、揚げた手羽先を和え、白ごまをふる。



福祉 エッコロ周知活動に向けて

エコロ制度のお互い様の助け合いは、増えている個配の組合員に伝わりにくいことから、日頃のチョッと困ったことの相談先として、市原ブロックに2019年7月からエコロコーディネーターが配置されています。所属先のワーカーズ結は、消費材の配達を担っています。組合員さんに会う中で現状を把握し、エコロ制度のお知らせも伝えやすくなりました。



市原ランチのメンバーはエコロサポーターに登録して、ケアにもつながりやすくなっています。今後も、お互い様の助け合いが広がる活動を進めたいと思えます。市原ブロック エッコロコーディネーター 本阿弥まさよ

- ・エコロの日常生活支援サービスは、組合員の「ちょっと困った!」に対応しています。
- ・県内6カ所にエコロコーディネーターが配置され、柏ブロックと佐倉ブロックと市原ブロックはW.Coが担当しています。

活動紹介あ・ら・か・る・と

受託 被災組合員への配送対応

台風15号、19号で被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。

千葉では台風15号の被害が大きく、各地で倒木などによる停電や断水となり、家屋の被害だけでなく、その後のライフライン復旧までがとても大変だったと思えます。

私たち市原メンバー数名の自宅が停電になり、自身の生活も大変な中でしたが、配達先の各地域でも停電となっている組合員は、冷蔵・冷凍品を受け取っても冷蔵庫が使えないため、発泡スチロールと保冷剤を貸し出したり、センターで預かり後日または翌週配達をしました。また高層マンションも停電でエレベーターが使えず、階段を昇りお届けした所がいくつかありました。

このように、できる限り「困った時はお互い様」の気持ちで対応をさせていただきました。

普段当たり前のように使っていたものが使えない不便さを実感し、いざという時の備えの必要性や当たり前の大切さを感じました。(W.Co結 五十嵐紀子)

原発被災地 宮城県を訪問

生産者の高橋徳治商店、B型就労の「パーラー山と田んぼ」、パン工房「さんさん館」、子ども∞感ばに、カフェゆめハウス、どの事業所も活動されている方々の熱い心が強く伝わってきました。

社会とつながること、働くことの意味、目的を改めて考えさせられました。復興支援金が2020年度で終了してしまうとのことですが、これから先も活動を継続していくために、国や自治体の補助は必要不可欠だと思われまます。どのような形でも支援を継続していくことが必須だと思えます。 鳴島美也子

◆1日目 9月4日(水)

- ・仙台駅集合~(松島市へ移動)
- ・東松島市「高橋徳治商店」工場見学と高橋英雄社長のお話
- ・石巻市(一社)石巻グリーンサポート 就労支援B型カフェ「パーラー山と田んぼ」昼食と、お話し
- ・石巻市 市立大川小学校跡地
- ・南三陸町 語り部さんの案内で南三陸町内視察
- ・南三陸町「ホテル観洋」阿部憲子さん(女将)のお話

◆2日目 9月5日(木)

- ・南三陸町 NPO 法人ウィメンズアイ事務所訪問・パン工房「さんさん館」見学
- ・石巻市(N)子ども∞感ばに(子どもの居場所づくり)
- ・女川町内視察と「カフェゆめハウス」訪問 昼食と交流…八木純子さんのお話

